

2022 年度 事業計画書

学校法人 名城大学

本法人では、立学の精神である「**穩健中正で実行力に富み、国家、社会の信頼に値する人材を育成する**」に基づき、社会が求めるバランス感覚と実行力を兼ね備えた人材の育成に努めています。具体的には、開学 100 周年を迎える 2026 年を目標年とする戦略プラン「Meijo Strategy-2026 (以下「MS-26」とする)」を 2015 年から推進しており、ビジョンである「**大学：多様な経験を通して、学生が大きく羽ばたく『学びのコミュニティ』を創り広げる**」、「**高校：『多様な経験』を創り出す『挑戦する学校』**」の実現を目指しています。さらに 2021 年度には、MS-26 の進捗状況を点検し、その完遂に向けて重点的に取り組むべき事業内容を「中期事業計画」として明確化しました。

この MS-26 及び中期事業計画に基づき、2022 年度に各設置学校及び法人が実施する主な事業について本計画書にまとめました。ここに掲げた、人材の確保・育成、教育・研究の充実、社会貢献、そしてそれらを支える組織・体制の整備と経営強化を、全構成員が一丸となり着実に推進してまいります。

2015-2026

MS-26 戦略プラン

—開学 100 周年に向けて—

立学の精神：「**「穏健中正で実行力に富み、国家、社会の信頼に値する人材を育成する」**

【大学・高校に関わる全ての人達と共有したい価値観】
生涯学びを楽しむ・・・「Enjoy Learning for Life」

Vision：多様な経験を通して、学生が大きく羽ばたく「学びのコミュニティ」を創り広げる

Mission：（教育ミッション）主体的に学び続ける「**実行力ある教養人**」を育てる

（研究ミッション）「**学問の探究と理論の応用**」を通して、**成果を教育と社会に還元する**

（社会貢献ミッション）社会との「**人的交流**」を通して、**地域の活性化に貢献する**

Key Performance Indicators (KPI)：学生の大学に対する満足度、学生の学修成果、就職満足度、卒業後の帰属意識、教職員の帰属意識



1) 戦略計画
一成果指標

人材の確保と育成

目的意識と行動力と社会性に優れた学生を確保し、ビジョンを実現できる教職員を育成する

1. 優秀な学生の確保

- 1) アドミッションポリシーに基づく学生の確保
 - 志願者数
 - 入試制度改革件数
 - 高大接続プログラム件数
 - 高校生を対象としたコンテスト・イベント等企画件数

2. 優れた教職員の確保と育成

- 1) 高い教育力・研究力を持つ教育職員の確保
 - 採用件数
- 2) 専門性を持つ優れた事務職員の確保
 - 事務職員（専門）採用件数
- 3) 能動的学修を支えるFDの促進
 - 研修件数
- 4) 教職協働事業を支えるSDの促進
 - 研修件数
 - 教職協働で開発した教育プログラム件数

教育の充実

多様性と実践性を大事にする基礎教育と専門教育を通して、コミュニケーション力と問題解決力をもつ人材を育成する

1. 学生の多様な経験による主体的な学びの促進

- アクティブ・ラーニング型学修の推進
 - 能動的学修の要素を取り入れた授業数
 - 少人数教育科目比率
 - インターンシップのプログラム開発件数
 - 学生の授業満足度
 - 学生の学修成果

- 2) 多様な専門性に根差したグローバル人材の養成
 - グローバルパスポート登録者数と証明発行数
 - 学生の海外派遣人数
 - 海外の大学との共同プログラム研修数
 - 留学生の国籍の広がり
 - 国際イベント数（学内）
 - 附属高校との連携件数

2. 大学院教育・研究の質保証

- 1) 高度専門職業人養成に向けた教育プログラム開発
 - 産業界等との連携プログラム件数
 - 海外の大学等との共同プログラム件数
 - 課題解決型学修の授業数
 - TA登録者数

3. 学修・課外活動・学生生活支援サービスの充実

- 1) 課外活動における多様な経験の促進
 - 課外教育プログラム開発件数
 - クラブ活動登録者数
 - 学生職員登録者数
 - SA登録者数

- 2) 学修・学生生活に関する支援体制の整備
 - 退学者数
 - 奨学金給付件数

- 3) ICTの活用による学修支援
 - 学生の学修成果

研究の充実

研究環境の充実を通して、社会に評価される学術の創造と普及を図り、教育と社会に還元する

1. 独創的研究の推進と研究成果の社会への発信

- 1) 自由な発想に基づく、独創的な研究の推進
 - 外部資金獲得件数
 - 産学官共同研究件数

- 2) 研究成果の積極的な発信
 - 教員情報に基づく論文件数
 - 教員情報に基づくアクセス件数
 - 研究成果発表会件数

2. 国際的な研究拠点の育成と強化

- 1) 国際的な研究拠点づくり
 - 拠点件数
 - 国外研究機関等との提携・交流・共同研究件数
 - 国外研究者来学件数

社会貢献

地域とともにある大学として、地域の多様なニーズに対応し、人的交流を通して活性化につながるサービスを充実する

1. 地域支援の充実

- 地域と一体となったコミュニティづくり
 - 地域の満足度
 - 地域・企業と連携した教育プログラム件数
 - ボランティアプログラム件数
 - ボランティア参加学生数
 - 地域との連携数・委員等の委嘱件数

2. 社会人の学び直しの機会の提供

- 生涯学習支援プログラムの開発
 - プログラム件数
 - プログラム参加者の満足度
 - 卒業生の参加者数
 - 大学院入学者に占める社会人の割合

組織・経営改革

ビジョンの実現に向け、戦略的かつ機動的な組織・経営改革を持続する

1. 組織の活性化

- 1) 社会のニーズを踏まえた大学院・学部・学科の改組
 - 改組・新設件数

- 2) 組織内コミュニケーションの活性化
 - 組織内の情報共有方法の見直し
 - 事務組織の見直し
 - 教職員の帰属意識
- 3) 内部質向上に向けたPDCAサイクルの推進
 - 学部等評価委員会の開催件数

2. ブランド力の向上

- 学内外への広報の積極的展開
 - 学生の学修成果の学外への発信
 - 理念等の学内外の浸透度

- 2) 卒業生及び父母との連携強化
 - 卒業生及び父母との交流・情報発信件数

3. ビジョンの実現を支える基盤整備

- 1) 学生の主体的な学びを支援する環境整備
 - 学生満足度
 - ラーニングコモンズの稼働率

- 2) 財源の多様化の促進
 - 寄附金件数

2015-2026

MS-26 戦略プラン

—開学 100 周年に向けて—

立学の精神：「穩健中正で実行力に富み、国家、社会の信頼に値する人材を育成する」

【大学・高校に関わる全ての人達と共有したい価値観】

生涯学びを楽しむ・・・「Enjoy Learning for Life」

Vision：「多様な経験」を創り出す「挑戦する学校」

Mission： （教育ミッション）「主体的に学ぶ力」と「突破力」を備えた生徒を育成する
（社会貢献ミッション）「人的交流」や「学習活動」を通して、社会的責任を果たす

Key Performance Indicators (KPI)： 卒業後の帰属意識、生徒・保護者の学校に対する満足度



本法人では、2021年度に中期事業計画を策定し、2026年に達成すべき「到達目標」を設定しています。この達成に向け、2022年度は以下の計画に取り組みます。（□内は、中期事業計画。）

大学

【2026年度到達目標】

- ・ 学生の大学に対する満足度 95%以上
- ・ 学位授与方針の達成度（学生の学修成果）90%以上
- ・ 本学を卒業することの誇り 90%以上
- ・ 本学卒業生としての誇り（卒業後の帰属意識）90%以上
- ・ 在学中の学びを振り返っての成長実感 100%
- ・ 就職満足度 98%以上

1. 人材の確保と育成

多様な素養を持つ質の高い学生を安定的に確保するため、入試改革を推進する。

- ・ 新課程に対応した入試制度を検討する。
- ・ 受験生の利便性向上を目的とした入試広報の改善を推進する。

多様な人材の活用による研究力・教育力強化のため、各種制度の導入及び改善を実施する（URA（ユニバーシティ・リサーチ・アドミニストレーター）制度、特任助手制度等）。

- ・ URA（ユニバーシティ・リサーチ・アドミニストレーター）制度を活用し、研究活動を支援する。
- ・ 教育・研究支援の充実に向け、特任助手制度を検証し改善する。

専門性を持つ優れた事務職員を確保する。

- ・ 事務職員の採用方針・計画に基づき、採用活動を推進する。

2. 教育の充実

社会のニーズを踏まえ教養教育を見直す（数理・データサイエンス・AI教育等）。

- ・ 学生に数理・データサイエンス・AIの素養を修得させる。

学生の主体性と実践性を育む教育改善を推進する（アクティブ・ラーニング・反転授業の推進、副専攻制度の全学展開）。

- ・ 副専攻制度の充実に向けた取り組みを推進する。
- ・ アクティブ・ラーニング型授業等の方法論を共有し、全学及び学部・研究科における教育改善を推進する。

多様な学生に対するキャリア支援を拡充する（学修ポートフォリオの全学導入、カウンセリングの充実等）。

- ・ 学修ポートフォリオを活用し、学修成果の可視化及びキャリア支援を充実する。

ビジョン達成に資する学びのコミュニティ創出支援事業等を活性化する。

- ・ 「学びのコミュニティ創出支援事業」のプログラムを検証し、活性化に向けた取り組みを推進する。
- ・ 「Enjoy Learning プロジェクト」のプログラムを検証し、活性化に向けた取り組みを推進する。

アントレプレナーシップを持った次世代人材を育成する。

- ・ アントレプレナーシップを養成する人材育成プログラムを推進する。
- ・ 起業活動促進拠点の活性化に向けた体制整備を行う。
- ・ 学生主体の起業コミュニティの運営を支援する。

国外派遣学生及び受入れ留学生を増加させる（交換留学制度の拡充等）。

- ・ 派遣留学制度の拡充により、学生を積極的に海外に派遣する。
- ・ 受入れ留学制度の拡充により、留学生を積極的に受け入れる。
- ・ グローバルプラザの利用促進により、学生の英語力向上とグローバルマインド涵養を図る。
- ・ 国際化計画 2026 の前期評価を実施し、後期計画を策定する。

退学者減少のため、退学理由の分析及び対策を推進する（学生指導体制の充実、メンタルヘルス対応等）。

- ・ 退学理由の分析や対策を実施し、退学者を減少させる。

3. 研究の充実

研究の更なる活性化に向けた組織的施策を実施・検証する（外部資金獲得に向けた教員サポート体制・制度の充実、URA 導入及び活用[再掲]）。

- ・ 外部資金の更なる獲得に向けた教員サポート体制の拡充及び環境整備を推進する。
- ・ URA 制度を活用し、研究活動を支援する。【再掲】

産官学連携による総合大学の強みを生かした研究（共同研究）を促進する（URA 導入及び活用[再掲]、リサーチフェアの推進等）。

- ・ URA 制度を活用し、研究活動を支援する。【再掲】
- ・ リサーチフェア、外部の技術相談会、展示会において研究シーズの情報発信、マッチングに繋ぎ、共同研究件数を増加させる。

LED・カーボンナノチューブに加え、新たな世界的研究拠点を形成する。

- ・ 総合研究所に研究センターを一元化し、更なる研究体制強化のため、独創的・先駆的な学術研究活動を積極的に支援する。

4. 社会貢献

社会的要請への対応や地域課題の解決等に向けた行政・企業等との各種社会連携事業及び包括連携協定の締結を推進する。

- ・ 行政・企業等との社会連携事業を推進し、社会的要請への対応及び地域課題の解決に取り組む。

社会のニーズを捉えた社会人向けの公開講座等を企画・運営する。

- ・ 社会のニーズを捉えた公開講座等の企画・運営により、社会人の学びや生涯学習の機会を創出する。

5. 組織・経営改革

大学規模の維持及び適正規模の検証・提案、全学的視点による既設学部・学科の再編を推進する。

- ・ 社会のニーズを捉えた大学院・学部・学科の改組等に向けた取り組みを推進する。

大学院の適正規模を検証・提案する。

- ・ 入学定員変更後の定員充足状況を検証する。

事務職員人事制度（給与体系、人事考課制度、専門人材 等）を見直す。

- ・ 事務職員新人事制度導入に向けた取り組みを推進する。

教学マネジメントを実質化する（学修成果の可視化による教育改善）。

- ・ 大学評価の受審により本学における教学マネジメントシステムの有効性を検証する。

ブランド力向上に向けた戦略的広報を展開し WEB サイトや SNS 活用方法を見直すとともにメディアとの関係を構築する。

- ・ 広報戦略に基づく情報発信及びメディアとの関係構築によりブランド力向上を図る。

文部科学省及び各種関係団体の動向や情報を収集する。

- ・ 東京オフィスを拠点に文部科学省及び各種関係団体の動向・情報を収集し活用する。

新たな卒業生組織を設置・拡大し、卒業生との連携を強化する。

- ・ 卒業生組織の拡充に向けた取り組みを推進し卒業生の誇りを醸成する。

コンプライアンス基本原則を策定し、その推進に係る研修等を実施する。

- ・ 研究倫理、ハラスメント、法令遵守等に係る研修を実施する。

ICT 活用を推進する（教育・研究環境の向上、学生支援、法人運営支援、社会への情報発信、業務効率化、セキュリティ強化等）。

- ・ ネットワーク環境や ICT 機器を整備し、教育研究活動の活性化を図る。

新築建物の円滑な稼働及び既設建物の効率的な運用管理により教育施設環境を向上する。

- ・ 全学共用棟着工に向け取り組む。
- ・ 建物の効率的な運用管理を行う。

安定的な財政基盤を維持・強化する。【法人全体】

- ・ 目標とした学生数を確保し教育・研究の基盤を維持する。
- ・ 収益事業の推進等収入の多様化及び業務改善による経費等の支出削減を推進する。
- ・ 特定資産を計画的に拡充する。
- ・ 安全且つ効率的な資産運用を行う。

100 周年事業を推進する。

- ・ 開学 100 周年事業を実施する（学内周知等）。
- ・ 開学 100 周年に係る募金事業を推進する。

上記に加え、2022 年度は以下の計画に取り組みます。

- ・ カーボンニュートラルに資する取り組みを推進する。
- ・ クラブ活動の活性化に向けた取り組みを推進する。

高校

【2026 年度到達目標】

- ・ 卒業時の生徒の学校に対する満足度 90%以上
- ・ 卒業時の保護者の学校に対する満足度 90%以上
- ・ 国公立大学及び大学校合格者数 100 人以上

1. 人材の確保と育成

質の高い志願者を安定的に確保するため、入試の見直しや戦略的入試広報を実施する（中学校への訪問、公開見学会の実施、中学生の訪問受入れ、学習塾へのアプローチ等）。

- ・ 質の高い志願者の確保に向け、入試制度の検証を行う。
- ・ 戦略的な入試広報を推進し質の高い志願者を確保する。

2. 教育の充実

生徒の多様化が進む中、全員に幅広い教養、コミュニケーション力、問題解決力を身につけさせるため、生徒一人ひとりの学習・生活状況に応じた指導を実施する。

- ・ 生徒一人ひとりの学力に合わせた学習指導を推進する。

教育の特色化を推進する（教育活動指針の策定、探究型学習プログラム・国際関係プログラム）。

- ・ 生徒の意欲を引き出す体系的な探究型学習プログラムを開発・推進する。
- ・ 多様な経験を創出する国際関係プログラムを開発・推進する。

3. 社会貢献

地域との交流プログラムを開発・実施するとともに参加生徒数を増加させる。

- ・ 地域との交流プログラムを開発・推進する。

4. 組織・体制整備

新築建物の円滑な稼働及び既設建物の効率的な運用管理により教育施設環境を向上する。

- ・ 教育環境向上のための施設整備を推進する。
- ・ 建物の効率的な運用管理を行う。

安定的な財政基盤を維持・強化する。【法人全体】

- ・ 目標とした生徒数を確保し教育の基盤を維持する。
- ・ 収益事業の推進等収入の多様化及び業務改善による経費等の支出削減を推進する。
- ・ 特定資産を計画的に拡充する。
- ・ 安全且つ効率的な資産運用を行う。

100 周年事業を推進する。

- ・ 開学 100 周年事業を実施する（学内周知等）。

上記に加え、2022 年度は以下の計画に取り組みます。

- ・ カーボンニュートラルに資する取り組みを推進する。